

日本の VTR 産業

家庭用 VTR(video tape recorder) の生産台数

1980 年 500 万台 → 86 年 3100 万台

1986 年のシェア

- アメリカ市場で、日本 81% (現地生産や OEM¹も含む)、韓国 16%、台湾 1%。
- EC²市場では、日本 70%、韓国 11%、EC19%。

アメリカ企業は開発段階で撤退。OEM に依存

欧州企業は V-2000 方式 (欧州で 1980 年に 10%のシェア) をとったものの、VHS³方式に敗けて
転換 (83 年)

1950 RCA⁴が白黒用 VTR を試作

1953 RCA がカラー用 VTR を試作

1956 イギリス放送協会 BBC の研究所が白黒 TV 用の VTR 「VERA」を発表

1956 米アンペックス社が 4 ヘッド回転式 VTR を開発。テープ量を少なく
=>アンペックス社が放送用 VTR を独占。米国内の時差に応じた放送を容易に。

1966 アンペックスが家庭用 VTR を発表。不成功

1970 アンペックスが「インスタビデオ」を発表。商品化できず。家庭用 VTR から撤退
---- カートリッジ・テレビジョンが家庭用のカートリッジ VTR 「カートリビジョン」を商品化
したが失敗

1953 ソニーが VTR を試作

1964 ソニーが家庭用 VTR 「CV-2000」を開発

1966 ビクター、芝、松下、三洋、(67 年) 東芝が家庭用 VTR を発売⁵

1970 家庭用 VTR の統一規格「U マチック」成立。ソニー、松下、日本ビクターがクロスライ
センス契約。

1975 ソニーがベータ方式の VTR を開発。録画・再生時間は 1 時間

1976 日本ビクターが VHS 方式の VTR を開発。ソニー以外のメーカーに仕様公開

1977 松下電器が VHS 方式への参加を表明。シャープ、三菱電機、日立も

1988 ソニーが VHS の採用を発表

¹ original equipment manufacturing 相手先ブランドによる製造。* 「OEM 生産」は誤記。

² European Community 欧州共同体。EU (欧州連合) の前身。

³ Video Home System の略。日本ビクターが開発。

⁴ Radio Corporation of America アメリカの電気機械会社

⁵ 電子工業 30 年史、202 頁。